

オイル仕上げ床材専用 メンテナンスオイル



OIL finish COAT

オイルフィニッシュコート

無垢材のオイル仕上げとは

無垢材の表面に、天然成分配合のオイルを塗装したものです。

オイルは床材に染込み、床表面には塗装被膜を作しません。表面加工をしていないので、木が呼吸をしています。無垢材の持つ自然な肌触りを大切にしましたものです。しかし塗装被膜を作らない反面、傷や汚れが付きやすいと言えます。そんなオイル仕上げ無垢材の最大の特長は復元性にあります。どんな汚れやシミが生じててもサンドペーパーで軽く擦り、本塗料【オイルフィニッシュコート】を塗布するだけで、簡単に元の床面に蘇ります。

そんな素晴らしい床材をいつもキレイに保つために【オイルフィニッシュコート】は、なくてはならない必需品です。

※オイル仕上げ床材を保護する為に、普通の樹脂ワックスを塗布するのは、木の呼吸を妨げてしまうので厳禁です。
必ずオイルフィニッシュコートでメンテナンスをして下さい。

特長・用途

- ・オイル仕上げ無垢材の保護用オイルです。
- ・木の持つぬくもりと、木目の美しさを生かしたまま、床に油分と栄養を補い保護します。
- ・亜麻仁油など、植物由来成分配合なので安全です。
- ・シンナー、トルエン等、シックハウス原因物質が含まれていません。

キット内容

- ・オイルフィニッシュコートを使う為に必要な道具が一緒に入ったセットです。



塗布用ハケ

オイルを塗布します。

拭き上げ用クロス

オイルを拭き取ります。

パッド

傷や汚れ落しに使用します。

塗布用カップ

オイルを入れて使用します。

オイルフィニッシュコート1L

1Lで25㎡～33㎡、約15畳～20畳塗れます。



品名	オイルフィニッシュコート
用途	オイル仕上げ床材専用 メンテナンスオイル
成分	亜麻仁油・植物性天然油
塗布量	30～40cc/㎡ (1リットルで約15畳～20畳)
内容量	1リットル
製造	日本製

火気厳禁



オイル仕上げ床材専用 メンテナンスオイル
オイルフィニッシュコート

使用方法

安全にご使用いただく為に下記の手順に従ってください。

① ホコリを取ります。

塗布前に床面のホコリ・髪の毛などを
取除きます。
当社の【フローリングモップセット】を
お使いいただくと簡単にお掃除出来ます。



② 水拭きをします。

固く絞ったタオル等で、表面の汚れを
除きます。

【フローリングモップ】を固く絞っても
ご使用になれます。

※ できる限り水分は少なめに、洗剤は使わないで下さい。



③ オイルを入れます。

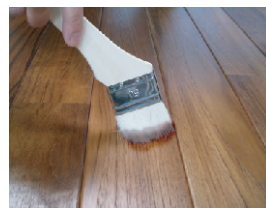
原液使用(よく振ってからご使用下さい)
本塗料のフタを開け、付属の塗布用
カップに適量入れます。



④ オイルを塗ります。

部屋の換気を十分にして下さい。付属の
ハケで塗布します。一度に多く塗布せず、
薄く均一に木目に沿って塗布して下さい。

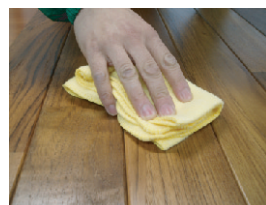
※ 塗布範囲は手の届く範囲で区切り、
そこを仕上げてから、場所をずらして移動して下さい。



⑤ 拭き上げます。

ハケで塗布後、表面が濡れた感になっ
たら、木目に沿って付属のクロスで拭き
上げます。

拭いた後、表面を触ってサラサラになっ
ていれば完了です。



床材を保護する為に、使用状況にかかわらず
年1回程度のオイルメンテナンスをお勧めします。

汚れやキズがある場合 オイル仕上げ無垢材はキズがついても簡単に補修できます。

キズやひどい汚れ・シミ・水滴の跡などが
ある場合には・・・

① パッドでこすります。

付属のパッドで、フローリングの目に沿って
表面を軽くこすって汚れをばかす様に除去します。

こすった後はカスが残らない様に、拭き上げます。

※ 力を入れ過ぎると、塗装が白く抜ける恐れがあります。



汚れや傷の部分



全体をばかす様にパッドでこする



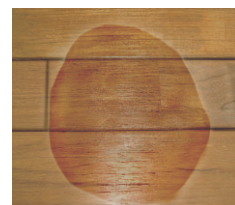
② オイルを塗ります。

パッドでこすった箇所は、少し多めにオイルを塗布して
クロスで拭き上げると、なじんで目立たなくなります。

完成！



クロスで拭き上げ、乾燥させる



オイルを塗布する

※ 本塗料を塗布したら、必ず拭き上げて下さい。

※ 使用後のクロスは化学反応により自然発火の恐れがありますので、必ず水に浸してから捨てて下さい。
製品自体が自然発火することはありません。

※ 付属のハケ・クロスは使い捨てです。使用後は水で濡らしてから捨てて下さい。

次回オイルメンテナンスを行う際には、市販のハケやタオル・パッドをご使用下さい。

パッドは目の細かいものをご使用下さい。使用する際はゆっくり目に沿って、軽くばかしながら こすって下さい。

目に沿わないでこすると、こすったキズが目立つことがあります。また、力を入れ過ぎたり同じ場所を何度もこすると
塗装が白く抜ける恐れがありますので、ご注意下さい。